

こいつは驚いた。  
勉強になるなあ、喜多さん。

藤枝宿と岡部宿にはこんな歴史があるんだねえ。  
弥次さん、知ってたかい？

## ⑨東海道松並木 (内谷地区)

宿場と宿場の間の街道沿いには、街道の目印や旅人たちを風雨から守るため、並木が植えられていました。内谷地区では、江戸時代以降も松を植えて、街道の景観を守り伝えており、現在も残る約560mの松並木が市の史跡に指定されています。歌川広重の浮世絵、鎌書版東海道五十三次でも、東海道の松越しに田中城の本丸櫓が描かれています。



## ⑩田中城下屋敷

下屋敷とは、江戸時代の藩主の別荘のこと。田中城下屋敷は、田中城の東南隅にあり、江戸時代後半には、築山や泉水、茶室などを設けて四季の景色を楽しんだといわれています。現在はその約半分が史跡公園として保存されており、田中城の本丸櫓など、ゆかりの建造物が移築・復元され、保存・公開されています。



## ⑪田中城本丸櫓

田中城の本丸にあった櫓で、現在は田中城下屋敷の敷地に移築・展示されています。田中城は戦国時代に築城されてから、明治時代に廃城となるまでの約500年間、この地域の政治の中心でした。田中城は、全国でも珍しい円形の縄張りを持つ城としても有名で、三の丸の形が亀の甲羅に似ていたことから、亀城とも呼ばれていました。徳川家康とのゆかりも深く、晩年の家康はしばしば田中城を訪れて鷹狩(飼いならした鷹を使った狩猟)を楽しんでいました。元和2年(1616)には、鷹狩を終えた家康が田中城でタイのてんぷらを食べて腹痛を起こし、それが原因で亡くなったという言い伝えが残っています。



## ⑫大慶寺 久遠の松

大慶寺は東海道22番目の宿場町・藤枝宿の本陣近くにあり、田中城の祈願寺として栄えたお寺です。久遠の松は、鎌倉時代、京都などでの修行を終えた日蓮上人が旅の途中で立ち寄り、未来永劫仏の道が栄えることを祈願してお手植えしたと伝えられています。樹齢は750年と推定され、県の天然記念物に指定されています。高い建物のなかった江戸時代には旅人の目印にもなっていました。



## ⑬飽波神社大祭の奉納踊り

飽波神社大祭は、江戸時代の藤枝宿場町の祭礼にルーツがあるお祭りで、3年に一度開催されます。藤枝宿内を中心に14区の屋台の勇壮な曳き回しと、長唄に合わせた大勢の踊り手による華やかな地踊りが繰り広げられます。



## ⑭瀬戸の染飯

東海道に面した瀬戸の茶屋で売られていた名物で、強飯(蒸したもち米)をクチナシの実で黄色く染めてすりつぶし、小判形や四角形などにして乾燥させたもの。クチナシは消炎・解熱などに効く漢方薬として知られており、足腰の疲れを癒やす食べ物として旅人に重宝されました。その歴史は古く、戦国大名・織田信長の事績を記した信長公記にも記載されており、戦国時代から名物として有名でした。



## ⑮東海道松並木 (上青島地区)

藤枝宿から島田宿へ向かう街道沿いに植えられた松並木。上青島地区では江戸時代以降も松を植えてその景観を守り伝え、現在でも残る約150mの松並木は、市の史跡に指定されています。



## ③岡部宿本陣址

本陣とは、参勤交代の際に大名などが宿泊する施設で、岡部宿には2軒の本陣がありました。明治維新後、参勤交代がなくなると、本陣もその役目を終えましたが、内野本陣はほぼ当時のまま残る敷地に、当時の建物の間取りが平面表示で再現されています。



## ⑥十石坂観音堂

岡部宿の東口にある小さな観音堂。もとは西行山最林寺というお寺でしたが、1808年の大火により焼失し、このお堂だけが残りました。近くに平安時代末期の歌人・西行が主人公の古典文学『西行物語』に登場する「笠懸の松」があったほか、西行像が祭られる(現在は専称寺に移管)など、西行ゆかりの地として知られていました。



## ⑦岡部宿大旅籠柏屋

岡部宿は、東海道21番目の宿場町。柏屋は岡部宿の中でも大規模な旅籠(宿屋)で、天保7年(1836)建築の建物が今も残っています。『東海道中膝栗毛』では、弥次さん・喜多さんは、大井川が川留のため先々の宿場が混雑していることを聞き、元々の予定を変えて岡部宿に宿泊しました。また、関西では、豆腐のことを「おかべ」と呼んでいたことから、『東海道中膝栗毛』の中でも「豆腐なる岡部の宿」とうたわれています。



## ①東海道宇津ノ谷峠越

戦国時代、豊臣秀吉による小田原攻めの際、大軍の通行のために整備されたといわれる、江戸時代の東海道。浮世絵にも大名行列の通行が描かれているような幹線道路でした。一方で、薄暗く険しい山道は、山賊や妖怪が出没する場所というイメージで知られており、歌舞伎の舞台などにも取り上げられています。



## ②鶯の細道

江戸時代の東海道が整備される前に使われていた、古代・中世の東海道。平安時代の歌物語『伊勢物語』にも鶯の生い茂る寂しい山道として登場します。伊勢物語の主人公とされる在原業平が愛しい人への思いを詠んだ「駿河なる宇津の山べのうつつにも夢にも人に逢はぬなりけり」という歌が人々の心を打ち、歌枕の地として有名になりました。



## ③明治のトンネル (明治宇津ノ谷隧道)

明治9年、地元有志らの手によって宇津ノ谷峠にトンネルが作られました。このトンネルは、静岡側は石造り、藤枝側は木組みで、トンネルの中央部でくの字にまがった特徴的なトンネルでした。また、日本で初めての有料トンネルで、通行料として大人は6厘(現在の価値で約200円)を徴収していました。このトンネルは明治29年に起きた火災により焼失してしまいましたが、明治37年にその一部を再利用する形で再建され、現在に残っています。



日本遺産について詳しくはコチラ

## ⑤羅徑記碑

「羅徑」とは「鶯の道」のこと。宇津ノ谷峠が古典文学にゆかりの深い、風雅な地であることを顕彰する石碑で、江戸時代後期に、峠越えの山道の途中に建てられました。現在は坂下地藏堂の脇に移設されています。



## ④坂下地藏堂

宇津ノ谷峠の西側の登山口にある地藏堂。ここに祭られているお地藏様は「鼻取り地藏」とも呼ばれ、歩かなくなった牛を動かしたり、稲刈りを手伝ったりして村人を助けた伝説があり、あつく信仰されていました。

